

# 2017年春号

JA全農発行

# 酪農のなかま

に掲載されました。



建設中の第二牛舎  
熱対策として沖繩県初となるトンネル換気システムを採用したのだ。一般的なトンネル換気では空気を強制的に引き込み反対面から排出するが、中村さんの場合、換気扇を片面に並べ、陰圧で空気を強制

## 沖繩初のトンネル換気

中村さんが建てた牛舎の特徴は、暑熱対策として沖繩県初となるトンネル換気システムを採用したことだ。一般的なトンネル換気では空気を強制的に引き込み反対面から排出するが、中村さんの場合、換気扇を片面に並べ、陰圧で空気を強制



横板と送風機で風が当たるように調整

## 六次化でつながっていく

平成27年4月、中村さんはJAファーマーズマーケット南風原（くまもと県庁）に



バーラー「モーモーHOUSE」で販売するジェラート

「手の大きさをみると中村さんが苦労を重ね本当に努力してきたことがわかる。だからこそ、まわりも中村さんを支えたいと思うんです。」



中村さんの手。JAおきなわ大城一也次長と比較すると明らかに大きいことがわかる

「現状のままではなく、とりあえず前に進めようという事です。いろいろチャレンジしてきましたが、失敗が圧倒的に多い。あきらめずに学んだことを活かしたから実現できたという事です」と話す中村さん。



EM（有用微生物群）活性液を活用した堆肥は、ホームセンターなどで販売

# 「その経験を活かさないともつたいたい」失敗を学びと思つて次につなげる経営

と、まず規模拡大に取り組んだ。「従業員を増やして週一回コンスタントに休みを取れる会社にしたかった。そのためには売り上げが必要で、牛を増やさなければならぬから牛舎を建て替えるよう、となったのです」

牛に風が当たっていないことがわかった。いろいろ試してみても、入れ替わった空気が牛に直接当たるように横板と扇風機を設置したところ、成績はだいぶ改善しました」と中村さん。

開設と同時に「モーモーHOUSE」をオープン、ここでオリジナルソフトクリームを販売する。「生乳の生産だけでは消費者と直接つながることはできません。自ら乳製品を加工し、直接販売することでお客さんに喜んでもらうことができる。もちろん収益も上がるし、それが従業員のモチベーションにもつながっていきます」

もしかしたら、この六次産業、意外とほんんと伸びていくのかもしれない」と中村さんは夢を膨らませる。

## 手放すのもつたいたい

沖繩県南部にある県内最大級のテーマパーク「おきなわワールド」にある中村さんの牧場「アーミファーム株式会社」はそのすぐ裏手にあり、ここで生乳を生産する。取材当時（平成29年2月）は牛舎向かいに48頭規模の第二牛舎を建設中という状況だった。

半強制では休みなしの毎日に嫌気がさし、工業高校の土木科を卒業するとそのまま沖繩を出て建設業に就職した。「うちを出るためにとりあえず就職しましたが、やってみたら建設業を極めようという25年も経ってしまつた」と話す中村さん。鹿児島に本社を置く建設会社の子会社で代表にまでなつて、一方、雇われ社長として割に合わない責任の重さも感じていたという。

「お客さんが「ガジュマルのように根を生やして長く続いてほしい」と苗木をプレゼントしてくれたんです。そういう人たちがいるのは支えになる」

「進化し続ける酪農」。実は事務所や会社HPなどに掲げられた中村さんの経営のポリシーでもある。「現状のままではなく、とりあえず前に進めようという事です。いろいろチャレンジしてきましたが、失敗が圧倒的に多い。あきらめずに学んだことを活かしたから実現できたという事です」と話す中村さん。



中村成則さん(左)と新垣隆史さん(右)。新垣さんは建設会社の同僚で、今は従業員として働く

沖繩県南城市玉城／アーミファーム株式会社  
中村 成則さん

中村成則さんは、引退を決めた父から経営を引き継ぐため約25年間勤めた建設業を辞め、44歳で就農した。この時点で資金に余裕はなく、実績も信用もない。さらに酪農全体が飼料高騰などで厳しい状況にあり、嵐の中での船出となったが、中村さんの決してあきらめない、プラス思考が道を拓いていった。



沖繩初のトンネル換気を採用した牛舎